

平成元年度会員を募集します



諸行事の発足に先立って、次のように、年間会員を募集します。御希望の方は、各規程に従ってお申込みください。いずれの場合も、住所、氏名、電話番号をお書きください。定員を越えた場合は抽選させていただきます。



●土曜観察会—自然の新聞作り—

身近かな野山や水辺を歩きながら、自然の中の事件やニュースを探して、新聞を作ります。参加希望者には予定表を送りますので、60円切手を同封して、封書で申込んでください。小学校低学年でもかまいません。

日時：毎月第2・4土曜日 午後2時～5時
場所：平塚・大磯周辺

●相模川を歩く会

相模川の源をめざして、流域の自然や人々の生活文化にふれながら歩きます。今年度は都留市から上流を歩きます。

期日：毎月1回日曜日に行います。
新規募集：10名
申込み：往復ハガキで4月14日までに。
ガイドンス：4月23日(日) 午前10時～12時

●石仏を調べる会

市内に建立されている石仏・石塔を調べて歩きます。平成元年度は旭地区で行います。

期日：毎月第2・4土曜日 午後2時～4時
新規募集：10名
申込み：往復ハガキで4月14日までに。
ガイドンス：4月22日(土) 午後2時～4時

●古文書講読会

近世の文書を読みながら、身近かな歴史を学びます。

日時：毎月第2・4土曜日 午後2時～4時
場所：博物館講堂
申込み：往復ハガキに氏名・住所・電話を明記のうえ4月20日までに。
定員：20名

●天体観察会

環境庁が全国に呼びかけて実施している「スターウォッチングネットワーク(全国星空継続観察)」を中心に、天体観測や望遠鏡操作の基礎知識を学びます。

期間：5月27日～平成2年2月
原則として月1回、土曜日の夜。他にスターウォッチング調査を夏と冬に行ないます。

対象：高校生以上。夜間観測ですから、体力に自信のある方を望みます。

募集人数：20名
申込み：今月下旬発行の案内書をご覧ください。案内書の郵送をご希望の方は、60円切手同封の上、博物館学芸係天文担当までお申込みください。なお応募締切りは4月末日です。

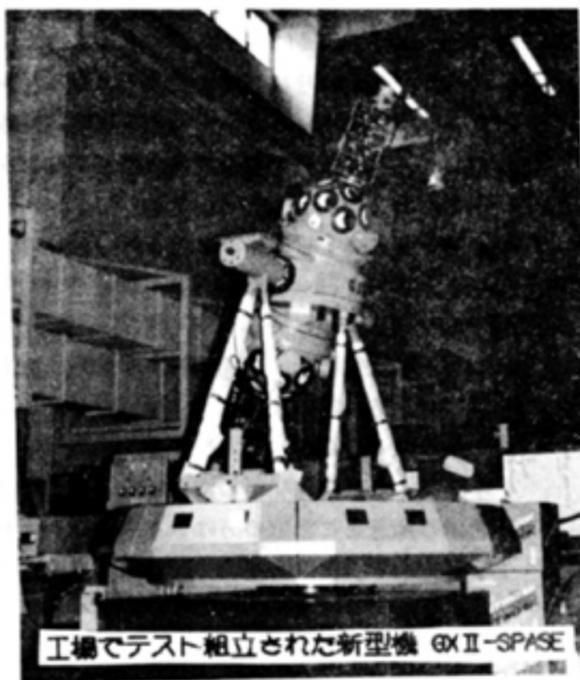


新しいプラネタリウムがやってきます (後編)

変わってゆく、プラネタリウム

少し前まで、プラネタリウムといえば、プラネタリウム投影機による星を見せ、それを解説してくれる、という場所でした。そして、そこへ行けば天文について知りたいことを教えてもらえるという窓口でもあったと思います。ところが、天文学の現場の研究が進み、内容の専門性が増すにつれて、プラネタリウムという場所に要求される解説内容も幅広くなってきました。また、社会の一般的な情勢として、ことばで聞くよりも絵として見せてもらった方が理解しやすいという人が多くなってきたのも事実です。その結果、プラネタリウムの投影の場では、スライドなどの「目に訴える」手段が多用されるようになりました。さらに、解説の方法も、説明調一本やりでなく、ドラマ風に仕立てて感覚的に理解してもらおう手法が取り入れられました。池袋にオープンしたサンシャインプラネタリウムの成功も、これに大きな影響を与えたと思われます。

こうした流れの究極の姿が、最近各地にオープンした傾斜式ドームを持つプラネタリウムで、人



先月号では、新しいプラネタリウムの本体投影機とその制御機能についてお話ししました。

今回の投影機の更新には、このほかにビデオプロジェクターをはじめとする補助投影器群の充実が含まれています。とくにビデオプロジェクターは、ビデオやレーザーディスクの画像をはじめ、コンピューターの画面なども解説手段としてスクリーンに映写できる最新のシステムとなっています。今月はこうした補助投影器の役割についてお話しておきましょう。

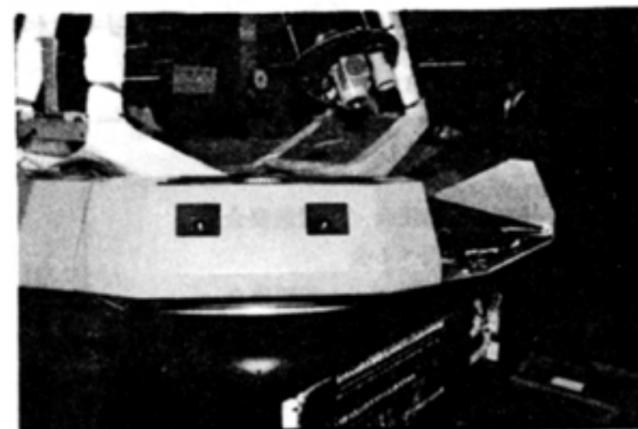
類が宇宙空間に進出する時代にふさわしく、前方の視界は水平線下まであり、まさに宇宙空間に自分がいるような雰囲気を楽しむことができます。

博物館の新しいプラネタリウム

しかし、その一方で、感覚をいたずらに刺激する大がかりな演出が、そこで演じられるものを日常生活とはかけ離れた絵空事のように感じさせていることもたしかです。むしろ、いつでも晴れた夜空を見上げれば輝いている星たちの姿の中にも真理があり、それを知ることのよろこびや、そのために必要な情報を伝えて行くことが、私たち地域の博物館のつとめではないかと思えます。

もちろん、事実や論理的なことばをならべただけでは、やはり真実を表現することはできません。土星に環があるのは事実でも、事実として聞かされるのと望遠鏡で実物を見た喜びとは異なるように。その際、実物資料が少ない天文分野では、映像資料はきわめて重要な博物館資料となります。ビデオプロジェクターを中心とする映像システムは、博物館資料の活用と、解説手段の充実を図るために導入されました。

また、ブラックホールやニュートリノなど具体的な映像で表現できないものや、人の想念(星座は文化的遺産ですから)を表現するには、さきほどお話したような感覚に訴える手法が有効でしょう。



右上、スカイライン投影機

スライドによる360°のパノラマを投影でき、たとえば「これが火星で見る星の動きです」と口だけで説明するよりも効果を高めず。



右下、分解されて搬入される投影機本体



プラネタリウムの「番組」

投影のための機材がいくらすぐれていても、それだけでは「こうしたことが可能だ」というだけで、実際に活用することはできません。新しいプラネタリウムの設備には博物館資料としての映像資料を撮影・収集し、それを分析・編集するシステムが備わっています。また、投影機を制御するプログラムを作ったり、臨場感を創り出す音響の編集もここで行なうことができます。プラネタリウムは、ただそこにあるだけでは機械と部屋にすぎません。こうしてあらかじめ番組として制作された後、機械に組み込まれ、解説者と、観覧者のみなさんとのコミュニケーションの中で、投影という「場」に変わるので。そうした意味で、私たちはここを天文展示コーナーとあわせて「星のひろば」と呼んでいます。

プラネタリウム、天文展示、行事。それぞれに長所と制約があります。それらが互いに補いあえば、星たちの世界はもっと身近になるでしょう。

3年前の春分の日の明け方、ハレー彗星を見ようと、平塚海岸の砂丘上にたくさんの望遠鏡と人の群れがありました。博物館の観望会にはのべ2千人もの人がつめかけ、望遠鏡に長い列ができました。マスコミ云々との説もありますが、「本物を見たい」という方たちの思いが、同じ「場」の中であって、痛いほど感じられました。ハレー彗星の回帰は、日常とはほど遠いと思われた星の世界が、現実となって現れようとした希有の機会だったのではないのでしょうか。

そして、ハレー彗星とともに去ってしまった星の世界は、ほんとうは、まだすぐそこにあります。「星のひろば」は、生活の一場面としてそれに触れられる、そうした「場」でありたいと願っています。新しいプラネタリウムはその中核となります。オープンまで二月たらずとなりました。遅れ気味だった工事も、今、急ピッチで進められています。どうぞお楽しみに! (沢村)

*** 行事案内 ***

<p>3月</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">4</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">土</td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">古文書講読会／土曜観察会</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">土</td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">石仏を調べる会</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">18</td> <td style="text-align: center;">土</td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">古文書講読会／土曜観察会</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">25</td> <td style="text-align: center;">土</td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">石仏を調べる会</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">26</td> <td style="text-align: center;">日</td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">体験学習「拓本墨を作ろう」 相模川を歩く会</td> </tr> </table> <p>・寄贈品コーナー：須賀の漁撈用具 (3月1日～30日)</p> <p>・第2回平塚市博物館公募写真展 (3月19日～4月23日)</p>	4	土	古文書講読会／土曜観察会	11	土	石仏を調べる会	18	土	古文書講読会／土曜観察会	25	土	石仏を調べる会	26	日	体験学習「拓本墨を作ろう」 相模川を歩く会	<p>4月</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">8</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">土</td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">土曜観察会</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">水</td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">"</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">16</td> <td style="text-align: center;">日</td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">自然観察会—大磯丘陵—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">22</td> <td style="text-align: center;">土</td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">石仏を調べる会ガイドンス</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">23</td> <td style="text-align: center;">日</td> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">相模川を歩く会ガイドンス</td> </tr> </table> <p>・寄贈品コーナー：新資料収蔵展（人文） (4月2日～28日)</p> <p>・みんなで調べよう平塚のカエル—産卵調査—</p>	8	土	土曜観察会	12	水	"	16	日	自然観察会—大磯丘陵—	22	土	石仏を調べる会ガイドンス	23	日	相模川を歩く会ガイドンス
4	土	古文書講読会／土曜観察会																													
11	土	石仏を調べる会																													
18	土	古文書講読会／土曜観察会																													
25	土	石仏を調べる会																													
26	日	体験学習「拓本墨を作ろう」 相模川を歩く会																													
8	土	土曜観察会																													
12	水	"																													
16	日	自然観察会—大磯丘陵—																													
22	土	石仏を調べる会ガイドンス																													
23	日	相模川を歩く会ガイドンス																													



●特別展—平塚市博物館公募写真展

期間：3月19日～4月23日

場所：平塚市博物館特別展示室

この写真展は、一昨年開催した公募写真展の第2回目にあたります。写真の公募は、昨年11月より本年1月までの3カ月間に亘り実施されました。その結果、応募写真は147点にのぼりました。2月4日には審査会が開かれ、審査の結果、優秀賞10点、入選17点が選ばれました。3月19日から開催される公募写真展は、これら優秀賞、入選作品を中心に、全応募写真の展示を行うもので、他に館所蔵の古い写真も展示する予定です。前回同様、写真展のテーマ「相模川流域の自然と文化」を伝える力作揃いです。どうかご期待ください。

●自然観察会—平塚の森を訪ねて—

平塚の吉沢には市内で一番広い緑が残されています。新緑の林を歩きながら、植物や昆虫の観察をします。

日：4月16日（日） 雨天中止

時間：午前9時～午後4時

コース：平塚市吉沢方面

申込み：4月5日までに往復ハガキで。応募多数の時は抽選で30名。

●予告

平成元年度の博物館行事一覧を「はくぶつかん」4月号で紹介します。継続して開かれて来た行事に加えて、平成元年度は、新しい講座を2つ設けました。ご期待ください。